



### 〔海の状況 (7/16~8/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 7月は神子平年よりはなはだ低め (平年差~-1.5℃) から平年並み (平年差±0.5℃) で推移したが、8月以降は平年並みからはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図1)  
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年よりはなはだ低め (平年差~-1.5℃) から平年並み (平年差±0.5℃) で推移した。(図2)

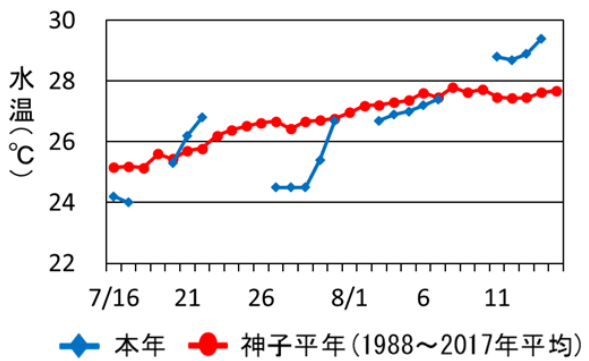


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

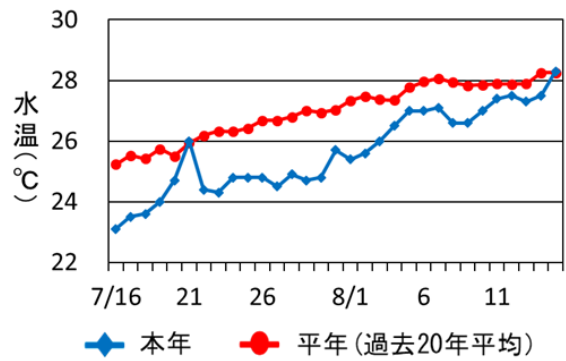


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

### 〔若狭湾および周辺海域の海況：7月〕

7月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0 m)では、若狭湾沿岸で26℃~28℃と前年同様であった。水深50 mでは、若狭湾沿岸で20℃~24℃と前年同様であった。水深100 mでは、山陰・若狭沖冷水域が前年より規模が縮小していた。水深200 mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲が小さくなっていった。(図3)

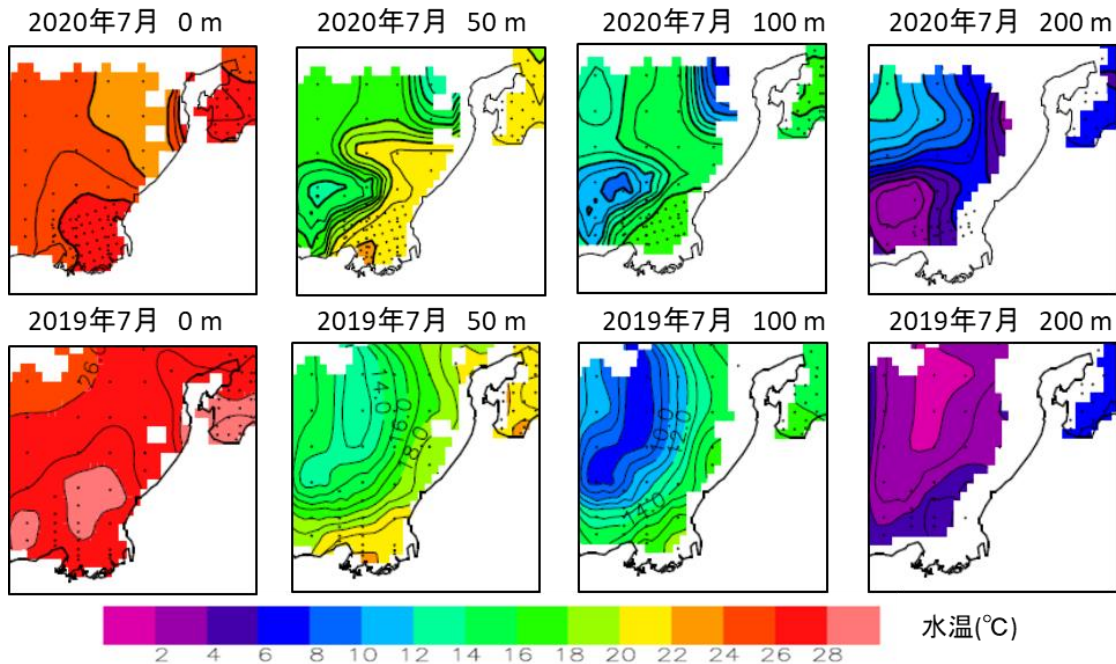


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

## 日本海における大型クラゲ情報

対馬海峡から日本海西部の広い範囲で大型クラゲの出現が確認されています。県内の定置網は1~4個/日と少量ですが、広範囲で入網がありました。8月24日現在、隠岐諸島周辺にやや濃密な分布があり、今後も県内定置網への入網が続くことが考えられますのでご注意ください。

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

### 〔県内の漁模様：7月〕

2020年7月の県内の総漁獲量は962 tで、前年同月を66 t上回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は688 tで、前年同月を99 t上回った。サワラ、ヒラマサ、スズキ等は下回ったが、ブリ（ハマチ、ツバス）、サバ類等は上回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は17 tで、前年同月を4 t下回った。ハタハタは上回ったが、アカエビは下回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は257 tで、前年同月を28 t下回った。タコ類、キダイ等は上回ったが、スルメイカ、スズキ、ケンサキイカ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(7月)

定置網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マイワシ	5,932	1,197	2,362	4,735	3,570
カタクチイワシ	21,641	11,718	16,839	9,923	4,802
アジ類	73,799	57,690	103,594	16,109	-29,795
サバ類	25,625	7,530	28,837	18,094	-3,212
マグロ類	2,951	3,541	2,281	-590	670
カジキ類	1,498	774	3,060	724	-1,562
カツオ類	2,951	1,111	3,023	1,841	-71
ブリ類計	252,849	52,600	235,304	200,249	17,545
(ブリ)	5,686	4,138	6,576	1,549	-890
(ワラサ)	608	1,535	9,177	-927	-8,569
(ハマチ)	172,664	29,338	99,203	143,325	73,461
(ツバス)	65,925	13,282	116,520	52,643	-50,595
(アオコ)	7,966	4,308	3,828	3,658	4,137
ヒラマサ	1,986	15,768	5,022	-13,782	-3,035
シイラ	88,449	80,431	15,322	8,017	73,127
サワラ	117,787	243,275	190,290	-125,489	-72,503
トビウオ	35,467	30,027	54,240	5,440	-18,773
マダイ	3,958	8,211	9,919	-4,253	-5,961
スズキ	4,006	15,123	9,177	-11,117	-5,171
カマス	3,121	5,091	5,783	-1,969	-2,661
アオリイカ	993	248	204	745	788
ケンサキイカ	24,959	33,215	17,195	-8,256	7,764
その他	19,832	21,704	22,286	-1,872	-2,454
合計	687,805	589,255	724,738	98,550	-36,933

底びき網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
ハタハタ	830	295	781	535	49
アカエビ	15,835	20,395	23,920	-4,560	-8,085
その他	299	482	1,225	-183	-926
合計	16,964	21,172	25,926	-4,208	-8,962

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
ヒラマサ	359	56	77	303	282
マダイ	348	920	1,812	-572	-1,463
キダイ	6,996	6,580	5,998	416	998
アマダイ	3,160	4,065	4,291	-905	-1,131
スズキ	749	4,502	4,963	-3,754	-4,214
その他カレイ	442	399	1,183	43	-741
アナゴ	232	306	840	-74	-608
メバル類	1,161	1,950	2,592	-789	-1,431
スルメイカ	133,462	137,922	32,931	-4,460	100,531
ケンサキイカ	1,448	2,703	4,328	-1,255	-2,880
タコ類	30,897	28,744	38,997	2,154	-8,100
その他	77,810	97,053	151,635	-19,244	-73,826
合計	257,064	285,200	249,647	-28,136	7,417

全漁法	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合計	961,832	895,627	1,000,311	66,205	-38,479

※1 平年の値は2010-2019年の10年平均です。 ※2 ( )は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。  
 ※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：7月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：7月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：7月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：7月中旬~8月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…フクラギ・コゾクラ6.8 t、サバ5.6 t、マアジ4.6 t、サワラ類3.0 t、トビウオ2.0 t、マイワシ1.7 t  
 京都府…定置網…サワラ2.7 t、サバ類1.8 t、ブリ類1.8 t、トビウオ類1.7 t、ケンサキイカ1.2 t、マアジ0.9 t  
 兵庫県…定置網…シロイカ207 kg、トビウオ65 kg、ヒラマサ52 kg、スズキ51 kg、マアジ37 kg、ツバス28 kg  
 鳥取県…まき網…マイワシ12.3 t、ブリ類5.2 t、マアジ3.3 t、マサバ2.4 t、カタクチイワシ1.1 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

## ヒラメの放流効果調査と標識放流の実施について

標識放流魚を見かけましたら、水産試験場までご連絡をお願いします！

水産重要種であるヒラメは資源量および漁獲量の増大を目的に日本各地で種苗放流が行われています。福井県では1984年からヒラメの種苗放流が行われており、近年は県内で20万尾前後のヒラメ種苗が毎年放流されています。毎年ヒラメの放流は行われているのですが、これら放流されたヒラメはどれだけ漁獲されているのでしょうか。

水産試験場ではヒラメの放流効果を把握するため、市場調査とDNA分析を実施しています(図1)。市場調査では、国見、敦賀、高浜の3市場(図2)で水揚げされたヒラメの全長測定と無眼側体色黒化に基づく混入率の算出を行っています。DNA分析では、水揚げされた放流魚のDNAを調べ、栽培漁業センターの養成親魚と親子判別を行うことで、県内で放流されたものかを調べています。これら調査の結果から、昨年漁獲されたヒラメのうち、放流魚は7.8%であり、放流魚の約70%は県内で放流されたものであると推定されました。

一方で、DNA分析では県内のどこで放流したヒラメかは分かりません。そこで、ヒラメの放流効果や放流後の移動をより細かく調査するために、漁業者の皆さんと協力して標識放流も実施しています。

今年は福井市越廼地先(図2)で無眼側の胸鰭を抜去した標識魚(図3)を7月28日に約5,400尾放流しました。ヒラメが漁獲、水揚げされた場合は無眼側の黒化の確認にあわせて、胸鰭の有無についても確認していただくとともに発見の際はご連絡をお願いいたします。

また、水産試験場では以前にアンカータグおよびパンチング標識(図3)による標識放流を行っており、他府県でもヒレの一部をカットしたものやタグを装着したヒラメの放流が行われています。これらのヒラメについても発見された場合はご連絡をお願いいたします(連絡先は1ページに記載)。



図1 市場調査の様子



図2 市場調査および標識放流の実施場所



図3 胸鰭を抜去したヒラメ(左)とアンカータグ(右上)、パンチング(右下)を施したヒラメ

最後になりましたが、標識放流の実施にあたっては嶺北地域栽培漁業推進協議会の皆様にご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(漁業管理グループ 元林 裕仁)